

科目	日常生活活動学(OT)	担当	藤田 高史	履修学年	2年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	必修	単位数	2単位

【授業目標・到達目標】

日常生活活動(ADL)の概念、ADL評価方法、ADL訓練計画の立て方とその進め方について習得する。また、作業療法が対象とする主な疾患に対するADLの考え方、障害特性に応じた評価と介入について理解する。

【履修注意】

各疾患の状態像に対する知識の整理を行なって授業に臨むこと。項目内容ごとに小テストを実施する。なお、予定を変更することがある。

【評価方法】

小テスト・期末試験・出席状況・応答内容・課題レポートなどを総合判定する。
小テストと期末試験70%、レポート20%、出席状況と授業中の応答内容10%とする。

【試験について】

(本校試験規定による、評価方法を参照のこと)

再試験対象者の条件:出席日数を満たし、総合評価が6割未満の者

【予習・復習】

シラバスを確認し該当箇所を予習しておくこと。小テスト、レポート課題で復習の機会を得るようにする。

【教科書】

書籍名:「ADLとその周辺第3版」 著者:伊藤利之, 鎌倉矩子編 出版社:医学書院

書籍名:「ICF国際生活機能分類」 著書:障害者福祉研究会編 出版社:中央法規出版

【参考書】

書籍名:「増大特集 ADLを問う-臨床の質が変わるADL支援の提案-」編集:作業療法ジャーナル委員会
出版社:三輪書店

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	日常生活活動概論①	ADLの概念と分類, ADL専門用語
2	日常生活活動概論②	ADLとICF, ICIDHとの関連
3	日常生活活動概論③	ICFの構造と理念の理解
4	日常生活活動概論④	ICF症例検討, 生活支援に関わる法律(各福祉法)
5	日常生活活動概論⑤	生活支援に関わる法律(障害者総合支援法, 介護保険法など)
6	ADL評価法①	ADL評価の組み立て・ADL評価における動作分析
7	ADL評価法②	各種ADL評価スケール(FIM, バーセルインデックス, FAI)
8	ADL支援法各論・関節リウマチ	関節リウマチのADL介入法と福祉機器
9	ADL支援法各論・パーキンソン	パーキンソン症候群のADL介入法と福祉機器
10	ADL支援法各論・糖尿病	糖尿病患者のADL介入法と福祉機器
11	ADL支援法各論・頸髄損傷①	頸髄損傷のADLに影響を及ぼす因子
12	ADL支援法各論・頸髄損傷②	頸髄損傷のADL介入法と福祉機器, 装具
13	ADL支援法各論・筋ジス	筋ジストロフィー症のADL介入法と福祉機器
14	ADL支援法各論・老年期障害	認知症者のADL支援法と対応
15	ADL支援法各論・CADL障害	コミュニケーション(主に失語症)ADL(CADL)介入法, まとめ
16	期末試験	15回の復習・確認・総まとめ